

1 奈良県方式

病床機能報告上急性期と報告された病棟を「重症急性期を中心とする病棟」と「軽症急性期を中心とする病棟」に分類

分類にあたっての基準は

「重症急性期」病棟を、50床あたり、手術+救急入院>1日2件を目安 とすること

2 シミュレーションの考え方

・平成29年度 病床機能報告上の手術件数(平成29年6月診療分)かつ「平成29年7月審査分」・・・1月あたりの件数

⇒÷30日で1日当たりの件数に変換 ……A

・平成29年度 病床機能報告上の新規入棟患者(平成28年7月1日～平成29年6月30日の1年間)のうち、予定外の救急医療入院の患者・・・1年あたりの件数

⇒÷365日で1日当たりの件数に変換 ……B

○A+Bの合計値を50床あたりの数値に換算し、その数値が>2となる病棟を「重症急性期病棟」 ≤2となる病棟を「軽症急性期病棟」とする。

⇒(A+B) × 50床 ÷ 病棟病床数 = C

3 算出結果

○病床機能報告単純集計結果

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	45,453	43.9%
回復期	10,106	9.8%
慢性期	23,526	22.7%
計	103,445	100.0%

■ 重症・軽症急性期判定結果

重症急性期病床数(C>2)	17,813
軽症急性期病床数(C≤2)	27,640

⇒

○補正後

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	17,813	17.2%
回復期	37,746	36.5%
慢性期	23,526	22.7%
計	103,445	100.0%

参考：高度急性期+急性期
42,173 40.8%

※2025年の必要量

機能	病床数	割合
高度急性期	15,888	14.0%
急性期	42,275	37.2%
回復期	34,628	30.4%
慢性期	20,973	18.4%
計	113,764	100.0%

参考：高度急性期+急性期
58,163 51.2%

1 佐賀県方式

病床機能報告で回復期以外と報告されている病棟のうち、
 ・①②については、回復期の過不足を判断する際に、回復期とみなす
 ・③については、将来の見込みを判断する際に、参考情報とする

①既に回復期相当	病床機能報告における急性期・慢性期病棟のうち、病床単位の地域包括ケア入院管理料算定病床数 ※病床単位の報告である病床機能報告の制度的限界を補正 病棟A 急性期の患者 回復期の患者 ←可能な限り客観指標で把握
②回復期への転換確実	調整会議分科会において他機能から回復期への転換協議が整った病床数 ※病床機能報告のタイムラグを補正
③回復期に近い急性期	病床機能報告における急性期病棟のうち、平均在棟日数が22日超の病棟の病床数 病棟B 急性期の患者 回復期の患者 ←平均在棟日数22日超のイメージ

2 補正值算定

①について、

急性期・慢性期病棟のうち、病床単位の地域包括ケア入院管理料算定病床数

急性期から回復期への補正分 630
 慢性期から回復期への補正分 56

②について

佐賀県は調整会議において転換協議を行い、協議が整った病床数により補正をしているが、同種の数字がないため、類似のデータとして、地域包括ケア推進事業(ハード)の平成29年度実績をもとに補正を行う。

急性期から回復期への移行分 121
 慢性期から回復期への移行分 108
 新設 87

③について

平均在棟日数22日超えの急性期病棟の 4,872

3 算出結果

(1) 病床機能報告単純集計結果

○病床機能報告単純集計結果

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	45,453	43.9%
回復期	10,106	9.8%
慢性期	23,526	22.7%
計	103,445	100.0%

○補正後数値

①、②による補正後

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	44,702	43.2%
回復期	11,108	10.7%
慢性期	23,362	22.6%
計	103,532	100.1%

①、②、③による補正後

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	39,830	38.5%
回復期	15,980	15.4%
慢性期	23,362	22.6%
計	103,532	100.1%

※2025年の必要量

機能	病床数	割合
高度急性期	15,888	14.0%
急性期	42,275	37.2%
回復期	34,628	30.4%
慢性期	20,973	18.4%
計	113,764	100.0%

1 大阪府方式

急性期として報告された病棟の診療実態を分析し、サブアキュート・ポストアキュートを提供する病床数を精査し、それらを「地域急性期」とし、2025年の必要病床数との比較時には回復期と報告された病床と合算して比較を行う。

○診療実態の分析の考え方

病床機能報告のうち、手術件数等「具体的な医療の内容に関する項目」を活用し、入院基本料単位で治療実績ごとに分析を実施。その結果、治療実績が多く、看護師配置が少なくなるに伴い、件数が大幅に減少しているデータをピックアップし、それをもとに仕分け

2 シミュレーションの考え方

ピックアップしたデータは、「手術総数算定回数」「化学療法算定回数」「救急医療管理加算レセプト件数」「呼吸心拍管理(3時間超7日以内)算定件数」の4つこれらのデータを1日あたりの50床あたり件数にならして分析

算定式：病棟単位の月あたりの件数÷30日×(50床÷許可病床数)

- ①「手術総数算定回数」 …… 1以上
- ②「化学療法算定回数」 …… 1以上
- ③「救急医療管理加算レセプト件数」 …… 1以上
- ④「呼吸心拍管理(3時間超7日以内)算定件数」 …… 2以上

このいずれかを満たすものを、「重症急性期」に分類
それ以外を「地域急性期(サブアキュート・ポストアキュート)」に分類

⇒ これと同様の算出方法を東京都データにあてはめ、シミュレーション

3 算出結果

○病床機能報告単純集計結果

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	45,453	43.9%
回復期	10,106	9.8%
慢性期	23,526	22.7%
計	103,445	100.0%

■ シミュレーション結果

重症急性期病床数	28,470
地域急性期病床数	16,983

⇒

○補正後数値

機能	病床数	割合
高度急性期	24,360	23.5%
急性期	28,470	27.5%
回復期	27,089	26.2%
慢性期	23,526	22.7%
計	103,445	100.0%

※

高度+急性期	52,830	51.0%
--------	--------	-------

○2025年の必要量

機能	病床数	割合
高度急性期	15,888	14.0%
急性期	42,275	37.2%
回復期	34,628	30.4%
慢性期	20,973	18.4%
計	113,764	100.0%

※

高度+急性期	58,163	51.2%
--------	--------	-------

1 概要

平成28年度病床機能報告を踏まえ、算定している入院料や具体的な医療提供状況から客観的な基準を作成。

2 機能区分の枠組み

(1)「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、どの医療機能とみなすか明らかな入院料の病棟は、当該医療機能とする。

(2)特定の医療機能と結びついていない一般病棟・地域包括ケア病棟(周産期・小児以外)を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した区分線1・区分線2により、高度急性期、急性期、回復期を区分する。

区分線1:高度急性期と急性期を分ける区分 区分線2:急性期と回復期を分ける区分

(3)特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

3 高度急性期と急性期の区分(区分線1)

救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療(全身麻酔下手術、脳血管内手術など)の、稼働病床数当たりの算定回数に基づき、しきい値を設定。

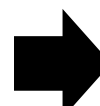
4 急性期と回復期の区分(区分線2)

一般病棟7:1において多く提供されている医療(手術、放射線治療など)等に関する稼働病床数当たりの算定回数に基づき、しきい値を設定。

5 機能区分の適用結果

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	許可病床数
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	213	2215
		高度急性期	204	7805
	一般病棟・地ケア等	急性期	800	34007
		回復期	534	20427
	回りハ病棟	回復期	146	6811
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	102	4237
	医療療養病床	慢性期	287	12926
介護療養病床	慢性期	47	2192	
周産期	MF・N・G	高度急性期	66	853
	産科一般	急性期	183	4722
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	36	1137
		急性期	52	1670
		回復期	11	429
緩和ケア	緩和ケア病棟(放射線あり)	急性期	7	139
	緩和ケア病棟(放射線なし)	慢性期	22	440

区分線1、区分線2によって分類



4機能区分	該当病棟数	許可病床数	割合
高度急性期	519	12,010	11.8%
急性期	1,042	40,538	40.0%
回復期	691	27,667	27.3%
慢性期	458	19,795	19.5%
不明等	87	1,377	1.4%
合計	2,797	101,387	100.0%

(参考:2025年の病床の必要量)

4機能区分	病床数	割合
高度急性期	15,888	14.0%
急性期	42,275	37.2%
回復期	34,628	30.4%
慢性期	20,973	18.4%
合計	113,764	100.0%